

**「コミュニティFM放送を積極的に活用してはどうか」
特に市役所のPR、防災情報などで活かしてはどうか**

三浦議員

- (1) コミュニティFM放送について
- ① どのように評価するか
- ② 連絡、連携、情報交換などは行っているか。
- ③ どのように活用したいか。
- (2) 防災行政について
- ① 平成22年度予算に防災訓練、防災意識の高揚などの施策のための予算が計上されていないのはなぜか。
- ② コミュニティFM放送局との防災協定締結の現状と内容はどのようになっているか。
- ③ 平成22年度の自主防災組織の結成目標は何%か。また、100%達成はいつと考えるか。
- ④ ハザードマップと土砂災害警戒区域図、特別土砂災害警戒区域図との関連を今後どのように整備するのか。

市長

(1) ① コミュニティFM放送は1つの自治体をエリアとする放送であることから地域防災をはじめ、即時の市民への対応に極めて有効と考えている。そのほか大村市のローカルな情報を提供することが可能であり、これまでの市政により、ケーブルテレビ、報道機関、インターネットなど情報伝達の手段に加わることににより、より一層市民への情報伝達機能が充実するものと期待している。

企画部長

(1) ② 防災協定の締結や、市政情報番組の

市民生活部長

(2) ② 開局後、速やかに防災協定を締結することとしている。協定の内容については、現在、意見を調整しているが、運用方法や費用負担などについて定めることになる。

市長

(2) ③ 100%は目標である。まずは県平均の42%の組織率を達成することに努め、この4、5年の間に50%の組織率となるように努力したい。

市民生活部長

(2) ④ 土砂災害特別警戒区域、警戒区域はハザードマップとは縮尺が違い、比較的小さい範囲が数多く指定をされていることから1枚の図面で作成することは困難と考えている。他市の事例を参考にしながら作成していきたいと考えている。

語学センター構想と 大村湾横断道路構想の実現性について

田崎議員

(1) 本市にゆかりのある財界トップの方々で「顧問会議」を設置し、経済や教育、文化などについて意見交換をされている。その中で「語学教育センター構想」が提言されたが、どのような事業なのか。

(2) 市長が呼びかけ人となり、大村湾に浮橋構造の横断道路を建設し、大村市と西彼半島を結ぶ構想の研究会が地元産学官のメンバーによって発足されたが、このような「浮橋道路」はアメリカやトルコに建設例がある。現在、西彼半島までは車で約1時間30分程度かかるが、この浮橋横断道路が架かると10分から15分で行けるので西彼半島の方々と周辺地区の方々は大変助かると思われる。また、交流も盛んになり、本市の発展にもつながると思われるが、今後の進め方はどのようにされるのか。また、実現の可能性はあるのか。

市長

(1) 第1に子どもに対する語学教育が大事である点、第2にアジアに近く、交通の要衝である利点を最大限に生かして、他の自治体より先陣を切る立場にある点、第3に医療の拠点である国立長崎医療センターがあり、医療技術を学びに来る方々を集めることが可能である点、第4に外国の方が看護・介護関係などで就労される際、日本語習得の難しさが資格取得のネックであることなどが

路」はアメリカやトルコに建設例がある。現在、西彼半島までは車で約1時間30分程度かかるが、この浮橋横断道路が架かると10分から15分で行けるので西彼半島の方々と周辺地区の方々は大変助かると思われる。また、交流も盛んになり、本市の発展にもつながると思われるが、今後の進め方はどのようにされるのか。また、実現の可能性はあるのか。

市長

(2) 大村湾で分断されている大村本土、長崎空港と西彼半島を結ぶ東西にかかる浮橋建設構想である。実現すれば大村から長与、時津、琴海方面への交通アクセスの大幅な改善を図ることができるとコスト面でも、かつての海底トンネル構想の3分の1から5分の1でできるという試算もある。利用予測や具体的工法などを研究会において検討を重ね、関係自治体へも呼びかけた協議会を発足できればと思っている。また、県を通じ国に対しても提言していく姿勢でいる。この浮橋による大村湾横断道路構想は決して夢ではないと思っ

(その他の質問事項)

- ・国道34号線の拡幅整備の進捗について
- ・都市計画道路久原・池田線について

